

自己評価および外部評価結果

グループホームみかんの樹こわな

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分が住みたいホーム、自分の家族を住まわせたいホーム」を理念とし、全利用者様が安心して生活出来る空間作りを目指している。管理者会議や全体会議、内部研修などにおいて、理念の共有に努めている。	「自分が住みたいホーム、自分の家族を住まわせたいホーム」という事業所の理念が全員に浸透し、共有できるようあらゆる機会を捉えて徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会の一員として町内行事への参加や、逆にホーム行事へお招きすることにより交流を深めている。また、地域のボランティアさんを受け入れて地域との繋がりを図っている。	町内会や近隣の学校の行事に加えて、日常の町内清掃やクリーン作戦、それに地域のボランティアの受け入れなど、交流を深めるための活動を継続的に実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議において、ホームとしてどう地域に貢献していきたいかお伝えし、会議中に頂いたご意見を参考にしながら地域の方々の見学や介護相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会や日頃のサービス状況を報告・相談し、そこで出たご意見を全体会議や家族会において報告することで、サービスの向上に活かしている。	町内会長や地域包括支援センター、家族代表、スタッフなども参加して、2ヶ月に1回開催している。非常時のことも考えて、地域の消防団にも参加要請することを検討している。	運営会議に地域の幅広い層の方々が参加して運営されているのは理想的であり、消防団の参加も実現されることを期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所のご担当者様とは、細かなことについてもご相談させていただき、密にご連絡を取らせていただいている。また、必要に応じて記録として残している。	市役所の担当者とは、事あるごとに相談し、密に報告・連絡・相談できるような体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの活用や身体拘束に関する研修を行うことによって、拘束のないグループホームとして日々取り組んでいる。	研修を行って身体拘束のないケアを実践している。玄関の施錠は午後8時以降のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを活用しつつ、虐待防止に関する研修を行うことによって職員に周知徹底するとともに、虐待が起きないように職員同士が注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる方はいらっしゃらないが、今後必要時に対処できるよう研修体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居及び退去の際には、重要事項説明書・契約書等を用いて、ご家族様・利用者様と十分な話し合いの場を設けることによって、理解・納得を得られるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様及びご家族様からの苦情相談があった場合には、苦情相談ノートを用いて記録を残している。内容等を運営推進会議や全体会議等において、職員並びに外部者へ報告し、運営に反映させている。	家族からの相談や要望を聞き、記録を残すと同時に事業所内のユニット毎にその対応策を検討し、実践している。また、同法人内の他事業者の管理者等とも意見交換を行い、対処している。	事業所への訪問頻度の高い家族もいる反面、接触の少ない家族も少なくない。こうした家族の意向把握にも努めるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議に一般職員を定期的に参加させることによって、意見交換ができるように図っている。また、必要に応じて個人面談を行い、不満・要望を聞く機会を設けている。	同じ法人内事業所の管理者をメンバーとする管理者会議に一般職員も交互に参加させ意見交換を行うほか、4月には個々のスタッフと個別に面接を行って不満・要望を聞くことになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場における職員の働きぶりを管理者より代表者に助言することによって、勤務状況を把握してもらっている。やりがいにおいては、各職員が望み各自に合った内容の仕事を与えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全事業所合同の研修や、外部研修への積極的参加を促すことによって、職員を育てる取り組みを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会への参加や、市内の介護保険事業所交流会にも参加し、他事業所との交流を図っている。また、他事業所との定期的相互訪問を行うことによってサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際に利用者様に面会し、ADL面だけでなく生活面や精神面でのアセスメントを取っている。ご本人が安心して生活を送る事が出来るよう、ケアプランを作成し必要であればご本人にも説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会や苦情・相談ノートを使って、ご家族が困っていることや相談事、要望などに耳を傾けることに努めており、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作成する際に、ご本人の能力や、ご本人とご家族の要望を取り入れた上で、他のサービスの利用を視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様一人一人が、ご自分の役割、若しくは日々の活躍の場を見つけることが出来るよう、コミュニケーションを大切に、ご本人の意思や思いを尊重することによってより良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や毎月のお便り等を使って、ご家族への積極的な協力の要請や情報提供等を行っている。また、ご家族も介護者の一員として考え、家族会において意見交換を行えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所内外での面会や、電話やお手紙などの支援を行うことによって、ご本人と馴染みの方(場所)との関係を持続させることが出来るよう努めている。	馴染みの方々との関係を継続できるよう、電話や手紙、年賀状などの支援をしている。また、馴染みの美容・理容所に同行するなど、通いなれた場所に行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立せず、利用者様同士が関わり合うように、コミュニケーションを取ることが難しい方についても、職員が間に入ることで円滑に進めることが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な理由により退去することがあっても、情報の提供や相談に応じることが出来るような体制作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、24時間生活変化シートを使って、ご本人の言動や行動を把握できるよう努め、日頃からの希望や意向をケアプランに反映させるように努めている。	センター方式の全シートを活用して、本人の意向や暮らし方の希望を把握できるよう努めている。	センター方式を熱心に取り組まれているだけに、個人情報保護に対する具体的な検討を求めたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居される際に、看護サマリーやご家族からの情報を元に、生活歴や趣向、これまでの生活環境を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートを使って、一日の過ごし方を把握できるように努めている。また、毎日バイタルチェックを行うことにより心身の状態を汲み取り、有する力等を把握できるようカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングする際に、ご本人やご家族などからご意見をいただき、それに反映した介護計画書を作成している。	本人や家族の意見をできるだけ反映させるよう介護計画を作成し、実践している。	個人情報の保護に留意した上で、蓄積したセンター方式のデータを多くの関係者で共有するなどして積極活用し、より効果的な介護計画になるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活変化シートや申し送りノートを使って、日々の様子やケアの実践・結果を記録できるように取り組んでいる。それによって、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの要望があった時は勿論のこと、その時に必要であると判断された時には、既存外のサービスを行うことにより柔軟な支援を行うことが出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園への散歩に行ったり、近隣中学校へのお花見を企画することによって、近隣の方に顔や状態を覚えていただき、ご本人が安全で豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で協力医療機関が往診に来てくださっている。ご本人、ご家族からの要望があった場合や、ホームで必要と判断された場合には、他院への通院の支援を行っている。	提携する医療機関の定期的往診もあるが、本人や家族の要望があれば他の医療機関への通院を支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への申し送りファイル、若しくは申し送りノートを使い、看護師との相談・情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院される際に、ホームの介護サマリーを作成し、医療機関への情報提供を行っている。また、管理者が入院先の医療機関において、病院関係者との相談・連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「看取りに関する指針」を説明し、ご家族からの同意書をいただいている。医療機関との話し合いをもって、看取り対応がいつでも出来る体制を整えている。	家族には「看取りに関する指針」を説明し、同意を得ているが、終末期の状況変化は激しいため、都度、家族や医師と連携しながら対応してゆく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に協力依頼をお願いし、応急手当や急変時の対応方法の訓練を年に一度行う体制にある。また、年に一度は内部研修を行うことによって意識の統一を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行うことによって、消火器の位置確認や各自の担当内容を確認している。また非常時用に最低限の水・食料等の備蓄があり、運営推進会議において地域への非常時協力要請を行っている。	年1回消防署の指導に基づいて避難訓練を実施するほか、施設独自にも訓練を行っている。また、スタッフ全員に救急救命、AEDの扱い方を身につけさせ、事業所にはAEDを備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議等を使って、利用者様の羞恥心に配慮した入浴・排泄介助等を行うことができるよう周知徹底させている。また、プライバシーを確保する為、言葉遣いにも留意している。	本人の人格を尊重し、声かけの仕方や言葉遣いに注意をはらって対応している。身だしなみにも、本人の意向も反映させながら、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な方については、ご本人の思いや希望を第一に考えている。また、自己決定が難しい方に関しては、選択肢を提示し、自己決定が行えるよう支援させていた		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者様一人一人がどのように過ごしたいか、希望に沿えるよう支援させていた		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、更衣時には、ご本人の希望を尊重し洋服を選んでいただくなどの支援を行っている。また、整髪や髭剃り、理美容サービスの利用支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の好きな物、嫌いなものを把握し記録することによって食事を楽しんでいただいている。また、日々の調理や後片付けを職員と一緒にいただいている。	現在は食材調達を請け負う業者の献立等を参考にしながら週1回1週間分を決めているが、今後、独自の献立づくりや事業所独自に食材調達することを検討している。	“おいしい食事”、“好みの食事”が提供できるよう引き続き検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、業者の方に献立を考えて頂き、必要であればホームのほうでメニューの変更を行っている。一日に必要な食事量・水分量を確保する為、記録を行い、把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを円滑に行う為、チェックリストを作成し、それに沿って口腔ケアを行っている。また、入れ歯の方には、毎日入れ歯の洗浄・消毒を行う支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々、排泄チェックを行い、排泄パターンを把握できるように努めている。また、安易なおむつの着用を避け、出来るだけトイレでの排泄を行えるよう、必要に応じてトイレ誘導を行っている。	事業所独自の24時間チェックシートによって排泄支援を行っている。リハビリパンツやおむつの使用はなるべく避けるよう考えており、トイレでの排泄を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューの工夫や、水分摂取量への配慮に努めている。また、日々体操等を行うことにより、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じて、入浴される日や時間帯を調整している。また、入浴剤や季節の湯を提供できるよう努めている。	朝、毎日入浴することを習慣としている利用者にも対応するなど、要望にそって入浴を支援している。羞恥心を抱かぬよう、スタッフも衣服をつけずに支援することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、眠剤によるコントロールに頼らず、日中の臥床時間が少なくなるように支援させていただいている。また、個々の生活習慣に対応し、睡眠時間の把握に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更等が生じた場合には、薬局より薬剤情報をいただき、申し送りノート等を使って職員への周知を徹底している。また、看護師と連携し、症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことや意欲が湧くことに積極的に取り組めるよう、日々職員と一緒に探し出す支援を行っている。また、定期的に外出や外食を行うことにより、気分転換できるよう図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの要望があったら勿論のこと、職員から見た時に外気浴の方が良いと判断した時には、戸外に出る支援をさせていただいている。また、ご家族様に協力を得て一緒に外出できる機会を得るようにしている。	散歩などの外出は本人の様子をみながら行っており、スタッフとともに外食というケースも多い。時には車で自宅を訪ねるなど、積極的に外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様からのご希望があった時には、ご本人に金銭をお渡しして、いつでも使える体制を整えている。また、外出された時などに、自由に使えるよう支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に、電話やお手紙などでのやり取りができるよう支援させていただいている。また、年賀状等を利用して、その機会を創出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に合わせた照明の調整や、温度調節を行うよう努めている。リビングの装飾は派手な物は扱わず、皆様が落ち着ける空間作りに努め、季節感が味わえる装飾作りを行っている。	1F、2Fのユニット毎に共有のリビング・ダイニングスペースがあり、食事やお茶を楽しむほか、テレビを見たりして自由な時間を楽しんでいる。訪問日にはお雛様が飾られていて、季節感が味わえる工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベランダのベンチなど、ご本人が好む場所を自由に選択できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で利用されていた家具や、ご家族の写真を持ち込んでいただき、可能な限り自宅での生活環境に近づけ、思い出の品や馴染みのものから安心感を持っていただけるような工夫を行っている。	1Fと2Fでは自室の様子が大きく異なる。利用者の希望でなんでも持ち込めるが、多くを持ち込む利用者がある半面、家族の写真程度という利用者もいる。あくまで、本人及び家族の希望に任せている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ること、難しいことを見極め、ご自分で出来ることに関しては職員が手を出しすぎないように努めている。残存機能を維持する為にも、自立支援を基本に支援させていただいている。		